



とむらかつゆき 戸村勝幸 県議会リポート

発行／自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

“ふるさとちば”的ための政策推進を

圏央道の延伸効果生かし

北総地域の観光振興で要望

2月県議会予算委員会に登壇

香取郡選出で県議1期目ながら、地域の代表として県政に対し、正面から発言する戸村勝幸（とむら・かつゆき）県議は、新年度予算案を審議する2月県議会の予算委員会に登壇し、圏央道の茨城区間が延伸開通したことを受け、北総地域の観光振興に延伸効果を積極的に生かすよう、県に対し活発なPR活動を要望しました。戸村県議は、ほかにも国土強靭化計画への取り組み、畜産農家の飼料用米導入への課題、地域の道路・交通問題などを取り上げ、県当局の考え方をただしました。

観光誘致促進課長 今
このように取り組んでいます。そこで伺います。このように取り組んでいます。

事務所は、県内の観光客の落ち込む秋に開始し、これまで複数の旅行会社から60本



パネルを使って神崎町の「発酵の里 酒蔵まつり」をPRする戸村県議

団体バスツアーの積極誘致を！

北総の魅力

月26日に圏央道の茨城区間が延伸開通することで、北関東地域や東北地域から本県へのアクセスがこれまで以上に向上します。

そこで県では、本県の観光の魅力と「近くなつた千葉県」を知るために、県内市町村や観光事業者等と一緒に連携して、1月には仙台で観

月商談会と観光物産展を開催したほか、仙台・福島の現地メディアを活用した情報発信などを行いました。

また、来月には栃木県内の東北自動車道佐野サービスエリアで、圏央道の延伸開通と本県観光の魅力をPRするイベントを開催する予定です。

北関東から観光客誘致

戸村委員 最近はテレビでも、各地域の魅力を楽し

以上の旅行商品が造成されたところです。

戸村委員 団体バスツ

アーエー優待プロモーション事業

が紹介され、その影響もあって、団体バスツアーによる旅

行も大変人気があると聞いています。圏央道を活用して

た団体旅行客の誘致に向

て、団体バスツアーワークによる旅

行も大変人気があると聞い

て、団体バスツアーワークによ

り取り組み状況はどうか。

た取り組み状況はどうか。

観光誘致促進課長 県で

は、圏央道の延伸開通効果

を活用して、北関東や南東

北地域の旅行エージェントや

バス事業者などに対し、団

体バスツアーワークの造成を促進す

ることで、引き続き、圏央道の利

用者に向けた観光誘客施策

に取り組んでいただきたい。

色のある道の駅がいくつもあり、車や団体バスでの周遊に適していると思います。

要望

北総地域には、日本で唯一「発酵」を

●県政と香取郡に関するご意見・ご要望をお聞かせください。

戸村勝幸 県議事務所

〒289-0601 香取郡東庄町篠川い4683-3
TEL0478-86-0246 FAX0478-86-2497



質疑者として立つ戸村県議

戸村勝幸のフェイスブックもご覧ください。▶▶▶

facebook 戸村勝幸

地域の声を県政に届けて



予算委で発言を求めて挙手する戸村県議

日本大震災で、津波や液状化などによって大きな被害を受けたところです。また、マグニチュード7クラスの地震が、今後30年以内に70%程度の確率で発生するとの予測も出ています。

国は、東日本大震災発生後、災害が起きるたびに事後対策を繰り返してきたことから、平時から大規模自然災害に備え、従来の狭い意味での防災の範囲を超えて取り組み、すなわち、強くしなやかな国家づくりを中心となり、積極的に取り組んできました。

千葉県でもこの法律を受けて、どのような災害が起こるか、どのように取り組むべき対策や帰宅困難者対策などを踏まえ、本計画では、津波対策、コンビナート地域の防災体制の強化、孤立集落

を踏まえ、本計画では、津波対策や帰宅困難者対策などを幅広く盛り込んでいます。

県は、都市部や沿岸部、山間部を有し、日本の縮図であると言われており、それぞれの地域ごとにさまざまな災害リスクを抱えています。

こうした本県の地域特性を踏まえ、本計画では、津波対策、コンビナート地域の防災体制の強化、孤立集落

を本年1月に策定し、公表したところです。そこで、千葉県の国土強靭化地域計画の特徴は、どのようなものか、伺います。

防災危機管理部長 本計画は、本県のさまざまな分野の計画等について、国土強靭化に関する指針となるもの

災害リスクを抱える

国土強靭化計画への取り組み

数値目標で進捗管理

舟戸地先の歩道整備

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、

進めています。

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、

進めています。

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、

進めています。

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、

進めています。

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、

進めています。

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、

進めています。

戸村委員

飼料用米の利

用を拡大するため、県は

今後、どのように取り組ん

でいくのか。

農林水産部長

県では、

稲作と畜産が盛んな地域に、

市町村と連携して耕種農家

と畜産農家による組織を設

立し、双方の十分な話し合い

を促すことにより、飼料用米

の利用が円滑に進むよう、取

り組んでいるところです。

さらに今後は、飼料用米

の利用事例の収集・分析に

より、その効果を明確にし

て経営モデルを作成し、畜

産農家に普及するととも

に、飼料用米を利用した畜

産物を積極的にPRするな

ど、畜産農家が地域内の飼

料用米を活用できるよう、